

I 自己評価

岐阜県立可児工業高等学校

学校番号

42

1 学校教育目標	(1) 基礎学力と専門の知識・技能の確実な定着 (2) 基本的生活習慣の習得と豊かで逞しい心の育成 (3) 産業界の信頼に応える学力の保証と勤労観の育成 (4) 豊かな人間性や社会性の育成
2 現状の分析	○基本的生活習慣の充実を目標に、遅刻防止指導に力を入れている。「遅刻0週間から、遅刻0習慣へ」のスローガンで取り組み、遅刻者数の減少を目標にしているが、生徒間で意識の差が大きく指導の工夫が急務となっている。 ○平成24年度にキャリア教育優良学校として表彰を受けたが、3年間の指導体系を確立することで、一層の充実が求められる。 ▲入学時の学力差が大きく、クラス内・学科間においての実態把握と、きめ細かな指導が必要となっている。
3 学校の抱える課題	・地域に密着した工業高校としての社会的ニーズの維持と今後の新たなニーズに応える学校として、両立を図る必要がある。 ・地元企業から優秀な人材を望まれる一方、基礎学力不足の生徒が増加している。 ・基礎的、基本的な学力の習得を目指す取り組みの効果を、どう検証し改善に繋げるか。 ・部活動や資格取得など、授業以外においても生徒の意欲向上が求められている。 ・生活習慣や環境、学習能力の格差が大きい生徒達に、挨拶や身だしなみ、交通安全マナー意識向上を図るための具体的な指導法。
4 今年度の具体的な重点目標	1. 逞しく生き抜くための基礎学力の定着と、専門知識・技能の習得を図る「チームワークでつくる可児工の確かな教育力」 2. 社会人としてのマナーやモラルを身につけた生徒の育成「生徒のことを思いやる心と共感的な生徒理解」 3. 地域社会や地域産業から期待され、信頼される学校づくり

年 度 目 標			年 度 末 評 価			
5 評価項目 領域・分野	6 重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基準 あるいは評価指標	8 取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	9 評価 A・B・C・D	10 成果と課題	11 総合 評価
教育課程 学習指導	①基礎基本の定着を徹底する	①診断テストの実施	①基礎学力診断テストの分析	B	○進学対応の指導内容充実 ▲基礎学力定着に向けた診断ツールの効果的な活用	A
	②授業改善を目的に研修を充実	②生徒アンケートの分析	②公開授業週間や職員研修の開催	A		
	③進学対応の教科指導内容研究	③指導計画の完成	③コース希望者の決定と意識付け	B		
キャリア教育 進路指導	①進路ガイダンス機能の充実	①就職希望者全員の内定確保	①外部講師の協力を得て5回以上実施	B	○各種ガイダンスや体験が 進路意識の高揚に繋がった ▲生徒間でその差が大きい	B C
	②インターンシップ体験の充実	②就業ノート等の分析	②事前事後の指導を充実を図る	B		
	③主体的な進路選択意識の醸成	③就職進学活動の積極性	③進路選択に明確な目標を持たせる	B		
生活指導 コミュニケーション能力 の育成	①多様な生徒に対応できる、指導法の研修と実践	①個人のスキルアップと組織としての指導力の向上	①問題行動の減少と退学者の減少	B	○多くの生徒が積極的に取り組む姿勢が目立った ▲効果的な情報の共有化	D
	②基本的な社会マナーの定着	②外部からの評価	②各種イベントへの積極的な参加	A		

II 学校関係者評価

実施年月日：平成27年1月21日

・可児工業高校の良さがまだまだPR不足である。本校への入学を効果的に促すためには、保護者へのPRを重点的に行うと良い。
・学習の達成目標を意識した取り組みが大切である。
・クリーブランド高校との姉妹校連携などの機会を生かして、英語教育の充実を図って欲しい。
・今後も地域と連携した活動を期待している。

12 来年度に向けての改善方策案

・学力評価の研究指定の取り組みを生かし、その定着と充実を図る。
・多様な生徒対応のため、教育相談体制の充実を図り援助体制を強化する。
・魅力ある授業を目指し、指導法の工夫や授業改善に向け職員研修を充実させる。
・生徒の意欲を引き出す効果的な評価の在り方を、学校活動全般に位置づける。
・生徒の学力を引き出す評価の研究を具体化させ、結果の検証ができる

